

「就職活動」へ 支援プログラム充実



▲ 企業説明会

▲ 総合就職合宿研修会

3年次生は、いよいよ就職活動本番を迎えた。就職課では、就職力アップのための就職支援プログラムや、個別相談を実施し、学生一人ひとりの希望の就職実現を徹底的にサポートしている。

進路・就職支援

また、キャリアデザインセンターでは、学生が希望の進路を探し出せるように、自己理解の促進や、課題解決型インターンシップなどの支援プログラムを展開している。一面に

経済・経営・商学部で インターンシップ発表会



▲ 経済学部



▲ 経営学部



▲ 商学部

大学の授業・研究が企てるか、また、働く人の立場から学習・就業を考えた。経済学部は12月10日に25人が、経営学部は12月6日に24人が、商学部は

11月22日に6人がそれぞれ個人、グループで報告を行い、最後に指導教員からの講評や協力企業等からの出席者から研修状況の現状と激励を受けた。

多様な留学制度 国際交流 キャンパスでも活発

本学は、世界16カ国・地域20大学と国際交流協定を結び、活発な教育・研究交流を行っている。

冬期日本語・日本事情プログラム

「楽しく勉強しています」

檀国大学から参加の黄さん、金さん

国際交流協定校など世界の(弘リヨン)第2大學生界各国の学生が、日本語の研修期間は3月14日までや日本文化を幅広く学ぶ。冬期日本語・日本事情プログラムが1月11日から始まった。韓国の檀国大学など9大學生25人が参加。2月29日まで行われる。



檀国大学から参加の金珉廷さんは「日本語には漢字、ひらがな、カタカナと3種類の文字があることに興味を持ち、勉強を始めた。大学では法律を勉強しているため、なかなか日本語のレベルアップができないので思いきって留学しました。同じく黄惠琳さんは「日本人は開放的で、人とすぐ打ち解けるところが素晴らしい。友だちがたくさんできて、楽しく勉強しています」と笑顔で話す。

▲ 金さん(左)と黄さん(右) 国際研修館で

長期交換留学生第1期に9人

- 2012年度長期交換留学プログラム第1期の派遣留学生に以下の9人が決まった。氏名と留学先は以下の通り。敬称略。
- リュミエール・リヨン 第2大学(フランス) ▽
- 渡部里紗(法2)
- 中山大学(台湾) ▽青木千恵佳(文2)
- 上海大学(中国) ▽大島実果(文2)
- バルセロナ大学(スペイン) ▽山中結衣(文2)
- 檀国大学(韓国) ▽齊藤千瑛(文2) ▽加登美有(同)
- マルティン・ルター大 学ハレ・ウィッテンベルク(ドイツ) ▽矢崎慶太郎(院文博3)
- ウーロンゴン大学(オーストラリア) ▽大谷卓也(文4) ▽深沢香葉(二部商3)

初級ウェブ解析士 認定試験に13人合格

キャリアデザインセンターでは、社会の第一線で活躍する実務家を講師に迎え、仕事の一端を体験するための「実務家講座」を開講。 「起業プラン作成体験」(前期)、「iPhoneアプリ開発」 「電子出版実務」 「WEBアクセス解析」(後期)に118人が受講した。 「WEBアクセス解析」を学んだ13人は、特定のウェブサイトにどのくらい人が訪問し、どのような検索ワードを利用してサイトにたどり着いたのか等データ解析を行った。受講生は12月22日、生田キャンパスで初級ウェブ解析士の認定試験に臨み全員が合格した。

演劇研究会「欽傍座」卒業公演

「All Days 3丁目の夕焼け」
▽日時＝2月19日(日)16時/20日(月)19時/21日(火)19時(いずれも30分前開場)
▽場所＝サテライトキャンパス(向ヶ丘遊園駅前北口) ▽無料
☎ 090・6278・0352 (木村敬生)

漫画研究同好会

シュラフ＝熊田 耕平(文3)



専大初の「女性のための護身術」 講習会開催 男子学生も参加

学生 主催



▲ 学生、職員ら23人が参加した

本学では初めての「女性のための護身術」(学生部主催)が、12月6日、神田キャンパスで開催され、学生や職員合わせて23人が参加した。学生部では、近年、通り魔事件などが多発していたことから、いつ事件に巻き込まれるかわからない社会事情を重く受け止め、犯罪から自分自身を守るきかけになればと、神田警察署の協力を得て実現した。

講習会は、神田警察署から警務課係長・笹川裕子警部補、生活安全課係長・杉保康子警部補、警備課係長・稲富泰孝警部補の指導により、ひたひたくり・性犯罪・ストーカー行為に対する防犯対策などについての講演のあと実践練習が行われた。笹川警部補と護身術の実践を行った高橋晴弥さん(法2)は、「自分を守るのには、自分自身だと身を持って感じました。テポポよく防犯対策のポイントを説明しながら実践でコツを教えてください、大変になりました」と語った。

外国語のススメ 「研究室」

—●5●—

英語

Fish and chips or sushi

ライオン、スティーブン 経済学部准教授

Recently I was in London to see the New Year Fireworks show. There was a huge crowd and people were doing all kinds of things: some were singing; some were taking photographs; and many were getting drunk. Everybody around me seemed to be speaking a different language, but nobody was speaking English. The only English words I heard in over two hours in a crowd of over 250,000 people were shouts of "Happy New Year!" as Big Ben struck twelve and the fireworks began.

This experience showed me just how much the culture of the UK has changed since I left. Perhaps I notice this changing culture most of all when it comes to eating. These days hardly

anybody in England eats my favourite 'English food'. For example, my thirteen-year-old nephew prefers sushi to fish and chips. In fact, he's never eaten fish and chips in his life. Another example was at Christmas; I wanted to eat a traditional Christmas dinner but my family, like many families, no longer wants to eat the traditional food; they want something new.

So what does all this mean for a teacher of English? It suggests that it is important to understand that cultures, and languages, are always changing. There is no point in teaching models of language and culture that belong to the past. Language learners need to understand what is happening now. (Stephen Ryan)

